令和８年９月

定例教育委員会会議録

十日町市教育委員会

令和８年９月定例教育委員会会議録

１　開催日時、会場

令和８年９月29日（火）　9時30分～11時15分

川西庁舎　４階　第１研修室

２　出席

渡辺正範教育長、廣田公男委員、川崎正男委員、小堺沙織委員、久保田果奈子委員

３　説明のため出席した者

教育文化部長（小林良久）、教育文化部副参事（鈴木政広）、教育総務課長（田村隆）、学校教育課長（渡邉正文）、指導管理主事（長谷川成生）、生涯学習課長（樋口具範）、スポーツ振興課長（数藤貴光）、文化財課長（村山歩）、「森の学校」キョロロ副館長（小海修）

４　会議の内容

（１）会議録署名委員の指名

署名委員：廣田委員、小堺委員

（２）報告事項

① 共催・後援等報告

渡辺教育長

・事務局の説明を求めた。

各担当課長

・資料に基づき説明

② 報告第１号　令和８年度標準学力検査（ＮＲＴ）の結果について

渡辺教育長

・事務局の説明を求めた。

渡邉学校教育課長

・資料に基づき説明

廣田委員

・３ページの説明で、中学３年生のところが上がっているという説明だった。この中学３年生は、棒グラフの一番右の水色であり、この学年が中２のときは、左の紫色になる。その前は黄緑、その前が朱色、その前が青色、その前がだいだい色になっている。この学年は、この６か年を見ると、常にトップにいる。この学年が今年、中３になったので、去年の中３よりも上がっている。要するに頭の良い学年が中３になったという要因が高いと思う。去年の中３よりも今年の中３は上がったとか、そこに着目するのではなく、例えば小４のときから一番左のだいだい色がだんだん下がってきているわけだが、何学年のときに一番下がったかとか、例えば途中でどこか上がったとすれば、それは何だったのかとか、そういったことに着目すべきなのかと思う。したがって、棒グラフではなく、折れ線グラフで示した方が分かりやすいと思う。そうすると、この下の四角のコメントの内容も変わってくると思う。再考をお願いしたい。

渡邉学校教育課長
・しっかりと分析して取り組む。

長谷川指導管理主事
・中学校の授業改善はかなり進んでおり、居心地のよい学級づくりによって非常に落ち着いた学級経営がなされている。下がっていること自体は問題だと考えているが、改善の傾向は見られている。今後も継続してほしいと考えている。

川崎委員
・廣田委員の考えと同感であり、同一の集団で見ていくことが大事だと思う。そういった観点で見たとき、小４の縦棒が下がっている。同じ学習集団ということで見た場合、上の表の小２から中３、平成28年から令和８年度、ここの数値に当てはめて考えてみると、小４の令和８年度は46.6、同じ集団で小３の令和７年度は48.9、小２のときは49.1となっているが、小３から小４にかけての下げ率がすごい。何があったのか、教えてほしい。ここを詳しく調べると、改善の方向が見えてくると思う。

渡邉学校教育課長
・１つ要因として考えられるのは、３年生の担任は新採用が多いということ。それで、どうしても指導がよく行き届かず、次の年に下がってしまうということが考えられる。

長谷川指導管理主事
・それに対して、新採用には支援等についてかなり注意深く行わないと同じような結果を招いてしまう可能性があるので、学校と連携を取りながら指導体制を見直すとともに、指導主事等がその学校に赴いて、実際授業を見て、どのようにしていくかということを校長と話し合いながら、新採用だから下がってしまうということがないよう対応を今年度取り組むところである。

川崎委員
・新採用が小学校３年生に配置される率が高いというのは、データで出ていることか。

長谷川指導管理主事
・出ている。

渡辺教育長
・そういったこともあり、下学年対象の学習支援員も配置をしている。この件については、非常に注視をしていかなければならない状況である。

川崎委員
・７ページにアンダーアチーバー、バランスアチーバー、オーバーアチーバーの割合について書かれている。アンダーアチーバーというのは、その子の知能に比べて期待される学力検査よりも低いという場合、バランスアチーバーは知能に比べて期待されている数値が出ている場合、オーバーアチーバーは、知能に比べてさらに何か高い学力になって結果が出ている場合ということで、望ましいのはどれかと問われると、バランスアチーバーということになると思う。アンダーアチーバーの子は、力があるのに、なかなか実力が出せない状況。オーバーアチーバーの子は、力以上に頑張っていて、将来燃え尽き症候群になる場合もあるというふうに聞いている。できるだけバランスアチーバーになっていくのが望ましいと考えているわけだが、十日町市は全国平均よりもアンダーアチーバーが多

い。なぜ多いのかという問題もあるが、それ以上にこのアンダーアチーバーをバランスアチーバーのほうに将来的に持っていくことが大事だと思っている。どうすればそうなるのか、そこが大事なところだと思う。アンダーアチーバーがバランスアチーバーに変容していく要因について研究した結果が公開されている。特に算数の学業不振からの改善には、より内発的な動機づけの育成が重要であるということが示唆された。内発的動機づけには何種類かあり、その中でも特に知る楽しさとか、解ける喜びそのものが目的となっている内発的動機づけの場合に、ぐっと伸びていくという話がある。そうすると、授業そのものが子どもたちに対して知る楽しさを提供できているものになっているかどうか、解ける喜びを与える授業になっているかどうか、これを意図してやっていくことがアンダーアチーバーからバランスアチーバーになっていくための一つの大事な指針になってくると思った。そうすると、宿題も大事かもしれないが、それ以上に授業改革である。授業改革するのは教師、どうやって授業改革をしていくのかを考えていくのが教育委員会。学校自身も主体性を持ってやってほしいが、そのような方向性で取り組んで、アンダーアチーバーからバランスアチーバーのほうに子どもたちが行くように、結果として全体の学力は上がっていくと思うので、焦点づけてやるべきはそこだと改めてこの数字も見て思った。

渡邉学校教育課長
・全国学テの保護者説明を行い、その後に市教委として取り組んでいくことを説明する。

久保田委員
・担任の先生は、どの子がアンダーとか、バランスとか、オーバーとか知っているのか。

渡邉学校教育課長
・学校は知っている。親は知らない情報である。

小堺委員
・ＮＲＴの結果、国語が下がっていることについてだが、情報館で学習の補助として、関連の図書を貸してほしいという先生から要望があるが、高学年でも読めない子が多くて、絵本多めでお願いしたいという依頼もある。実際に子どもたちが、読んだり書いたりする力が本当に下がっているのか、また水準が少し高くなっていて、あまり変わっていないのに力が届いていないのか、そのあたりを教えてほしい。

渡邉学校教育課長
・実際読む力が弱くなっていっているのは確かである。それを何とかするために、読むこと書くことを重視していかなければならないと思っている。

渡辺教育長
・基本的に読む力、書く力の基礎が落ちているということは確かである。したがって、読めない、書けないと、国語だけでなく、数学でも英語でも理科でも、全て問題の意味を理解できない。だから、問題が解けない。指導主事から報告を受けている。まずは国語力、その後の基礎の読み書き、そこに力をいれないと、次のステップには進めない。国語力の向上、基礎力の向上が最大の課題だと思っている。

（以上の質疑の後了承した）

③ 報告第２号　令和８年度全国学力学習状況調査の結果について

渡辺教育長
・事務局の説明を求めた。

渡邉学校教育課長
・資料に基づき説明

廣田委員
・２ページのグラフ、市と県と国が出ているが、そもそも新潟県が全国でも低い。石川県とか富山県、特に石川県はすごくレベル高い。県民性と言ったらそれまでだが、県の教育委員会からもう少し県のレベルを上げることに真剣になってほしいし、もっと予算もつけてほしい。高校が変われば自然と小学校も変わってくると思う。何か会議があったらそういう話をしてほしい。

渡辺教育長
・内部の会議でその辺が話題になったことがある。なぜ石川県や富山県が高くて新潟県が低いのか。福井県も含めて、北陸３県は非常に高い。比べて、北陸４県となったとき、新潟県が入ると下がる。これはどういうことなのか。結論から言うと、理由は分からないのだが、県民性もあると思う。子どもたちが素直に先生方の言うことを聞いたり、家に帰ってもちゃんと時間どおり勉強したりという習慣がしっかり身についているということは言えるのではないかという見立てもある。その辺りは真摯に受け止めて、できることからやっていく必要があると考えている。

川崎委員
・今日の午後、研究主任の先生方が集まって会議を開くということであるが、今後、市教委としてほかにどんな手を考えていくのかということが大切だと思う。例えば県内に附属の小学校３校あるが、その３校との連携をどう図っていくかということも大事な視点だと思う。附属長岡小学校で、近々研究協議会が行われ、授業公開されるので、そこに先生方が参加して、よい授業をまず見てもらう。それから、協議に参加してもらう。その背景にはどんな学級経営があるのか、または日々教師としてどんなことに気を遣って学級経営や授業づくりをしているのか、そのようなところを学んでもらう、そんな附属の研究会に参加するのも一つの手だてだと思う。それらも含めてほかにどんな手が考えられるのか、検討してほしい。

渡邉学校教育課長
・附属の研究会については、担当指導主事が新潟、長岡、上越に行っている。さらに、探求の導入ということで、目黒区の視察にも行く予定である。

長谷川指導管理主事
・現在、教育センターで学校訪問に力を入れている。授業を見て、授業の在り方について検討するということで、全ての学校を回っている。授業を見て指導するということを継続的に行いたいと考えている。

久保田委員
・私の５年生の子どもが、通級にお世話になっている。通常の授業のクラスに入っているが、普段のクラスのスピードだとちゃんと理解ができないが、そこを週２回の通級で、一

部分だが補ってもらっている。話を聞くと、算数だと得意な子と不得意な子に２クラスに分かれて、授業をゆっくりめとできる子はさらに伸ばすという授業の工夫をしていたみたいである。先生方もそのような中で一堂に教えなければならないので、なかなか大変だと思いながら見ている。

渡邉学校教育課長
・学力の底上げを図ることを目指し、できる子、できない子というよりも、少人数に分けて取り組むことはやっている。

渡辺教育長
・取り組む内容は多岐にわたっているので、対応する教職員は非常に大変な環境の中で行っているが、日々研鑽してしっかりと高めていきたいと思っている。

（以上の質疑の後了承した）

④ 報告第３号　十日町市立学校カスタマーハラスメントの対応に関する指針の策定について

渡辺教育長
・事務局の説明を求めた。

渡邉学校教育課長
・資料に基づき説明

廣田委員
・14ページの報告のところ見ると、カスタマーハラスメントが起きたときにこれを書くとのことだが、普段から電話が来たら、些細なことでもメモをして、口頭でもよいので上司に報告しておく。これに書ければ一番よいと思うが、そのときにこの事案区分のどれだか分からないということも含めて、こういうのが来たという報告はしておいたほうがよいと思う。この指針外の実施の運用として、徹底したほうがよいと思う。

渡邉学校教育課長
・メモを取ることなどは大事なことなので、普段から学校には指導をしている。また、しっかりと正しく報告して対処するよう校長には指導していく。

廣田委員
・結局最後は、言った言わないの話になると思うので、当初からメモしてそれを残しておくことが一番大事だと思う。

川崎委員
・こうした指針ができると、現場としては大変ありがたいと思う。12ページ、２番の定義、（１）「学校以外の場所であっても、当該教職員が業務を遂行する場所については、学校に含むものとする」とあるが、例えばどんなところを想定しているか。

渡邉学校教育課長
・校外学習先など、学校を離れて活動している場所を想定している。

長谷川指導管理主事
・その場でカスタマーハラスメントが起きてというわけではなく、例えばその校外、修学旅行等で何か問題が起きたときに、それに対して保護者が何か物を申されたときに、それに対しての対応になるので、学校にいなかったから、これが適用できないということを防ぐための注釈だと考えてもらいたい。

（以上の質疑の後了承した）

⑤ 報告第４号　情報館喫茶コーナーの試験営業について

渡辺教育長
・事務局の説明を求めた。

小林教育文化部長
・資料に基づき説明

（特に質疑なく了承した）

⑥ 報告第５号　十日町市陸上競技場公認更新に向けたガバメントクラウドファンディングの実施について

渡辺教育長
・事務局の説明を求めた。

数藤スポーツ振興課長
・資料に基づき説明

久保田委員
・このチラシからだと、そのお金が何に使われるか分からない。

数藤スポーツ振興課長
・工事費にも充当するが、備品関係の更新に使う。もう少しわかりやすい形にする。

久保田委員
・市民もふるさと納税できるのか。

数藤スポーツ振興課長
・できる。

（以上の質疑の後了承した）

（３）議決事項
①議案第１号　新しい十日町市立中学校立地検討委員会設置要綱の制定について

渡辺教育長
・議案第１号を上程し、事務局の説明を求めた。

田村教育総務課長
・資料に基づき説明

廣田委員
・第３条の委員の構成だが、（２）の地域住民というのはどういう方を指名する予定なのか。

田村教育総務課長
・13の地域自治組織の中から、地域バランスを見ながら、幾つかの自治組織から委員を推薦していただきたいと考えている。

（以上の質疑のあと、全員挙手で決定した）

５　その他
（１）川西地域小学校再編協議会について
・資料に基づき説明

（２）令和８年度十日町市総合教育会議（10／27開催）の事前説明について
①魅力ある十日町市立中学校づくり方針について
田村教育総務課長
・資料に基づき説明

久保田委員
・十日町市総合教育会議とは、どなたが参加する会議なのか。

田村教育総務課長
・市長が招集して、参加するのは市長と教育委員の皆さんになる。そこで、今この議題について私のほうで説明をした後、市長と意見交換していただく形になる。

渡辺教育長
・市長が座長になって進めていくという形である。当然市長自身もこの内容について、ご本人の見解もあるし、皆さんにこの内容について見解をただすというような場面もある。逆に言うと、市長部局に対して教育委員会として一定の協力を求める、そういうこともあり得ると思っている。

廣田委員
・資料の14ページ、四角の囲みの中に「将来、全市１校を基本」と書いてある。何か少し曖昧な表現になっている。

鈴木教育文化部副参事
・今のこの方針案の中では、提言が出た中期的な視点というのをずばり10年後という言い方をしている。提言では、中期的には２校から３校、長期的には30年後ということで１校としたが、地域説明会などをする中で、将来的に30年後に１校にするのであれば、中期的な視点、10年後に１校にしたほうがよいという意見があり、このようになった。この素案の中でも、提言にあった中期的な視点という10年後をめどに全市１校にするというふうなり、将来という言い方をすると漠然としてしまう。表現について、検討する。

②教育職員の業務量管理・健康確保措置実施計画の進捗状況報告

渡邉学校教育課長
・資料に基づき説明

廣田委員
・６ページの業務の３分類、いろいろな業務が載っているが、これは要するに時間外の在校時間を減らすためのものだと思うが、例えば14番の給食の時間における対応というのは、当然在校時間内の業務だが、これが載っているということは、これをもしなくせば、その間に教師は教務室で、本来放課後にやっていた仕事ができるということか。

渡邉学校教育課長
・実際、給食の時間に教師が抜け出して仕事するということはあまりない。ある学校ではランチルーム等の活用によって、全校を一斉に集めて、そこで教師が給食指導を行っているという事例がある。そういったことの負担軽減をするということが含まれている。

川崎委員
・今の件だが、栄養教諭が学校にいる学校といない学校があるわけだが、栄養教諭の仕事内容をしっかりと周知して、栄養教諭にそうした食に関する指導ができるように学校体制を整えていただくことで、担任の給食の時間における対応が少し負担軽減されるという意味合いだと思う。給食の時間に全くタッチしないような担任になるということではないというふうに理解しているが、それでよいか。

渡邉学校教育課長
・そのとおりである。

廣田委員
・14ページの②だが、平日の地域展開についても中期的な視点で検討するとあるが、この計画期間が11年度までなので、中期的というのは11年度だということを注釈したほうがよい。それと、引継ぎについて。次の担任に引き継いでいるとは思うが、私の経験ではどうもしっかりと引き継いでいないような気がする。一から聞かれることがある。引継ぎをしっかりやれば相当時間も短縮できると思う。

渡邉学校教育課長
・部活の地域展開について、令和11年までしっかりと取り組んでいく。引継ぎについては、私の経験上は、必ずするものと認識している。

（３）十日町市文化観光推進協議会構成員の推薦について
事務局
・資料に基づき説明。久保田委員を選出したい旨説明。

（異議なし）

（４）10月の主な行事予定について
・資料に基づき説明

（５）次回定例教育委員会の開催日時

・10月定例会　10月27日（火）１５時００分から開催することを確認した。
・11月定例会　11月20日（金）　９時００分から開催することを確認した。

以上で、11時15分に渡辺教育長が閉会を宣言した。

以上の会議録に誤りがないことを認め、ここに署名する。

会議録署名委員

会議録署名委員

会　議　書　記